

## 柏尾集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成 25 年 6 月 3 日

修正日：平成 年 月 日

市町村名	南部町	組織名	柏尾コンバイン組合
1 地区の範囲 西伯郡南部町 天津地区			
2 地区の概要			
水田面積	29.52 ha		
主な水田栽培作物	水稻（含 飼料米）		
農家数	29 戸		
認定農業者数	0 経営体		
地域水田農業ビジョンの担い手数	0 経営体		
3 組織化の目標（設立時期の目標は、事業実施年度内とする。） ・ 設立時期（規約等の制定日）【平成 5 年 4 月 1 日】			
	組織形態（該当形態に○）	構成農家数	
【現状】事業開始年度 (25年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未組織           ○ 共同利用型</li> <li>・ 作業受託型   ・ 協業経営型</li> </ul>	14 戸	
【目標】事業開始翌年度 (26年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共同利用型   ○ 作業受託型</li> <li>・ 協業経営型</li> </ul>	24 戸	
注 1) 集積率の目標値を現状より高い数値に設定することが困難な場合、構成農家数の増でも可。			
4 集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標			
項 目	【現状】	【目標】	
集 積 面 積    A	17.34 ha	23.45 ha	
対象水田面積   B	29.52 ha	29.52 ha	
集 積 率    A/B	58 %	79 %	
注 1) 集積率の目標は、50%超が採択要件。			
注 2) 集積率の目標は、原則として現状よりも高い数値を設定すること。			
注 3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。			

## I 集落営農に対する基本方針(自由に記載)

### 【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

#### 1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

※考え方(担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて。)

- ・柏尾集落は、南部町天津地区に位置し、水田面積29.52haの水稲作付を中心に営む集落です。
- ・当集落においては、早期に圃場整備事業により農地・農道の整備を行い、農地の効率的な利用を模索し、水稲の生産調整にも積極的に取り組んできました。
- ・しかし、近年は農業従事者の高齢化、米価の下落等により個々の農家で行われるはずの水田の維持管理が出来なくなりつつあります。
- ・現在、当組合は規約上は作業受託を行えるようにしていますが、主としてオペレーターを固定しない共同利用の形態をとっています。しかし、既に、集落の農家の大半に農業後継者がなく、さらにそれらの農家は高齢のため、自分で機械を使う共同利用では対応が出来なくなってきています。また共同利用の機械も耐用年数を大きく超え、頻繁に故障して作業能率が悪いために、集落全体の作業をまかなう事が出来ないこともあり、他地区の法人や個人に作業をお願いせざるを得ない農家が年々増えている状況です。
- ・せっかく全戸参加の組合を作っているのに集落内のコンバイン作業は、原則組合で行いたい意向は強いのですが、現任の組織体制と装備では難しい状況となっています。

#### <課題を解決するための対応方針>

- ・これまでも、集落内から組合が作業受託を受けて欲しいという要望が出ており、一部では共同利用の機械で自分たちの作業の延長で他の農家の作業も一緒にするような作業受託に近い形態も見えてきたこともあり、機械の共同利用組合の形態から作業受託型の営農組合への再編への検討を進めてきているところです。
- ・そこで、今回のコンバインの導入を機にオペレーターを明確にした作業受託組合へ、組合を再編し、生産性の向上と経費の削減に努めて、効率的な生産体制を整備していきます。
- ・他地区担い手に委託して出していたコンバイン作業を当組合が作業受託を行っていくことによって、将来的には、集落全体水田の利用集積を行っていくことを目標としています。

#### 2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

※考え方(今後伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。)

#### <現状と課題>

- ・平成24年度の水稲作付面積は約22.5ha。
- ・転作作物は飼料米が中心ですが、生産者の高齢化により、新たな転作作物の導入は難しく、主食用水稲についても現状維持が厳しい状況にあり、このままでは、耕作放棄地の発生が懸念されています。

#### <課題を解決するための対応方針>

- ・水田農業については、地域で連帯を図り、水稲、転作作物を計画的(ブロックローテーション)に作付けし、安心・安全な農作物の生産に努めます。
- ・水稲以外の作物は、地域の立地条件をいかした産物を育成するとともに、経営所得安定対策制度を活用し、優位な品目の栽培(そば・飼料米)により、水田の有効活用を図ります。

### 3 農業用機械施設の効率利用

※考え方（省力・低コスト化に向け、機械・施設をどのように有効利用していくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどのようにするか。）

#### <現状及び課題>

- ・当集落は、兼業農家が多く、高齢化が進んでおり、水田耕作維持が困難になっています。
- ・米価が低迷する、収入の増加も望めていない状況で、個人では高性能な農業機械の購入が難しい状況です。
- ・当組合は、平成元年4月に設立をし、現在はコンバインを保有して、集落の水田農業の担い手として活動していますが、機械の共同利用という体系では、機械の稼働も効率的とはいえず、管理も不十分な面があり、集落の要望に対応が出来ていないのが現状です。
- ・作業受託組織に再編する場合に、オペレーター候補として、現在主に組合の機械を使っている農家を考えているが、いずれの農家も50代～60代で、数年後を考えると将来的なオペレーターとしては不安が残ります。

#### <課題を解決するための対応方針>

- ・新しいコンバインの導入を機にして、当組合を作業受託組織として再編し、オペレーターや機械の管理者を特定し、効率的な機械の運営と管理を行います。
- ・それによって、水田農業の低コスト化と生産性の向上を図り、集落全体の作業受託を行う集落営農組織を目指します。
- ・新しいコンバインの導入とともに、新たなオペレーターの候補者として、若年層を中心に集落内から募り、オペレーターの継続性を図ります。
- ・転作作物として、飼料米に積極的に取組み、コンバインの利用効率を更に向上させます。

### 4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

※考え方（世代交代に備え、組織運営の後継者をどのような方法で育成していくか。新規就農者の活動参画。具体的な取組みの内容について。）

#### <現状及び課題>

- ・生産組合の中心となる構成員が年々高齢化しており、組織の体制の維持が難しくなっています。
- ・機械のオペレーター候補者が既に50代～60代と高齢なため、将来的な作業受託作業の拡大維持に不安があります。

#### <課題を解決するための対応方針>

- ・集落内の若年層を中心に、組合の構成員及びオペレーターになってもらうように積極的働きかけます。
- ・また、集落内で機械の扱い方や水稻栽培についての研修会や、組織のあり方などの話し合いを積極的に設け、集落の農業に若年層が積極的に関わっていけるような雰囲気醸成を図っていきます。
- ・組合の作業等を集落に公表し、新規の作業参加者を随時募ります。

### 5 経営多角化の方針・具体策【経営多角化支援メニューを実施する組織においては必ず記入】

※考え方（どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組みなどについて。）

## II 農業用機械施設の整備方針

### 1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
コンバイン	4条刈	1台	9,250,000	H25年9月	○